



南部町立南部中学校 学校だより 第19号

千一ム南部中

令和5年1月19日(木)
校長 望月和彦

2023(令和5)年 卯年 3学期が始まりました

1月10日、ピンと張り詰めた冷たい空気の体育館に、制服姿の凛々しい生徒たちが集まり、第3学期の始業式を行いました。式の中で4名の生徒が「3学期の抱負」を発表しました。

1年の千頭和涼大さんは「1年生は授業と休み時間のメリハリがつけられていないことがあるので、学級役員が中心になり呼びかけをしていきたいです。4月には新入生がやってくるので1年生のお手本となる2年生になれるよう、みんなで協力していきたいです」。2年の久保田



大賀さんは「3学期の学年の目標は、何事においても真剣に取り組むと同時に、全力で楽しむことのできる集団をつくることです。僕は後期の学級議長として、朝の会や帰りの会の司会、そして授業のあいさつの号令を責任を持ってやり遂げ、授業中も率先して手を挙げて発言していきたいと思います。」3年の樋口あいさんは「3年生の良いところは、明るく楽しい学年であることです。輝城祭や音楽発表会でも、真剣に取り組んだり、協力し合ったりすることはもちろん、明るい雰囲気をつくることを大切にしてきました。3学期は受験も近づいて、勉強や面接練習など大変なことがあります。そんな時でも、みんなで明るく励まし合って頑張っていきたいです。そして卒業するときに、最後まで良い3年間だったと思えるようにしたいです。」最後に生徒会代表の遠藤夏奈さんは「3学期は次の学年や次のステップへ上がるための準備をする大切な学期です。新生徒会では、仲間との関わりを増やせるような活動を行っていきたくて考えています。仲間との関わりの中から一人一人の意識を向上させ、個人個人も今よりも少し上を目指していくことで、質の高い集団を目指していきたいと思います。」4人の生徒たちは、それぞれの学年や生徒会を代表して、堂々と立派に抱負を述べてくれました。

私は、始業式の中で次のような話をしました。

(略) 17日間の冬休み中にも部活動や学習会、入試に向けた面接練習など、学校で元気に活動しているたくさんの生徒の皆さんに会いました。大きな事故の報告もなく新学期が迎えられたことが何よりです。(略)

さて、この冬休みに私は新型コロナの濃厚接触者になりました。家族が陽性になったのです。感染した家族を隔離し、私自身も5日間家に籠もって生活しました。正月なのに外に出かけられず、仕事もできず、改めてコロナの恐ろしさを感じると同時に、今まで感染した方々やそのご家族の辛さを身をもって感じたところです。山梨県でも先日は感染者が2千人を超えました。社会では少しずつ規制も緩くなっていますが、後遺症に苦しんだり、亡くなったりする方も増えているようです。今後も、可能な限り感染しないように、感染してしまった人は他の人にうつさないように、また、感染してしまった方やそのご家族には思いやりの気持ちを持って行動していきましょう。



↑ 冬休み中の学習会

辛い巣ごもり生活をしていた私にも、楽しめたこともありました。それはテレビなどでのスポーツ観戦です。市川瑛士さん、古屋祐磨さんは、県代表としてJOC中学生バレーボール大会に出場し、結果は2敗ということでしたが、決勝トーナメントに進んだ宮崎県代表にあと一歩というところまでいったそうです。2年生で全国大会に出場した経験は南部中バレー部にもいかされると思いますし、ここにいる全員にも勇気と自信を与えてくれました。テレビでは高校駅伝、箱根駅伝、花園の高校ラグビー、サッカーの高校選手権、そして春高バレーなどが放映されました。山梨県出身の高校生や大学生を応援しつつ、山梨県出身者でなくても力の限りを尽くす人たちの姿に、とても感動しました。一つの目標目指して、色々なことを我慢して努力し、最後まであきらめずにがんばっている姿は、多くの人を感動させ、何よりもその人自身の人生を豊かにしてくれます。スポーツ以外でも同じです。文化や芸術、趣味や研究、人のために役に立とうとすること…何でも良いので、皆さんも打ち込めるものを何か探して人生を豊かにしてほしいと思います。



↑ 冬休み中の部活動

3学期は授業日が1・2年生は52日、3年生は42日と、大変短い学期です。1・2年生は学年のまとめの学期であり、次の学年への心構えをつくる期間であります。3年生にとっては中学校生活、義務教育の締めくくりとなる学期です。3月末には1年間の成長を実感し、この仲間、この学級、この学年、そして、この南部中で「やってこられて本当に良かった」と一人一人が心から思えることを望みます。そして3年生は、それぞれの進路実現のときです。最後まで力を振り絞り、入試という壁をみんなで乗り越え、喜び合える春を迎えられることを祈っています。

読書活動の推進 「ビブリオバトル」

2学期末の12月22日の6校時に、図書委員会主催の「ビブリオバトル」が行われました。ビブリオバトルとは、発表者が自分のお薦めの本を1人3分以内（公式大会では5分）で参加者全員に紹介します。その後で会場の参加者が発表内容について聞きたいことを質問し、発表者が答えます。（ディスカッション）すべての発表が終わったあとで「一番読みたくなった本（チャンプ本）」を参加者全員の投票で選ぶというゲームです。今回の発表者が紹介してくれた本は、発表順に、仲亀寛人さんの「さらにざんねんないきもの辞典」、望月彩香さんの「最後は会ってさよならをしよう」、後藤愛莉さんの「心理&ナゾトキゲームBOOK」、草場珂奈さんの「夜に駆ける YOASOBI 小説集」、佐野稜真さんの「四月は君の嘘」、小池亜依さんの「ぼく モグラ キツネ 馬」という6人の6冊です。6人の発表者は班の発表会で選ばれ、次にクラス全体の発表会で選ばれた代表者たちです。6人それぞれが、お薦め本のどんなところが面白いのかを、個性



豊かに伝えてくれました。そして投票の結果、チャンプ本は望月彩香さんが紹介した「最後は会ってさよならをしよう」となりました。堂々と発表してくれた6人と質問を出して盛り上げてくれた多くの生徒たちに拍手を送りたいと思います。今年度の図書集会では、ビブリオバトルの他に「おすすめ本交換会」という取り組みも行われました。全校生徒それぞれが紹介したい図書館の本を一冊選び、紹介カードに薦める理由を書きます。すべての生徒が、誰かが薦めてくれた本を借りて読んでみるという取り組みです。

本校の学校評価の中に「私は読書が好きである」という評価項目があります。今年度の生徒アンケートの平均値は2.7（4が「そう思う」で、1が「そう思わない」の4段階）でした。真ん中よりは上ですが、他の評価項目の平均値に比べて低く、本校生徒の課題であるといえます。今回の「ビブリオバトル」や「おすすめ本交換会」などは、そうした課題を改善するための図書委員会の取り組みの一つです。

「校内書きぞめ大会」

1月10日の始業式の午後には、恒例の「校内書きぞめ大会」を行いました。1年生は「決意」2年生は「夢の宇宙」3年生は「青雲大志」という文字を行書で書きました。各教室では、普段の授業ではあまり見られない真剣な面持ちで書に取り組む生徒たちの姿が見られました。作品は「教育祭書きぞめ大会」や「南部町新春書道展」に出品されます。



避難訓練&初期消火訓練

1月12日の6校時に4回目の避難訓練を実施しました。今回は家庭科室で火事起きた想定での避難訓練でした。12月に町で購入していただいた新しいヘルメットをかぶって生徒たちは迅速に避難できました。その後、初期消火訓練を行いました。望月大教諭が消火器の使用方を全校生徒に説明したあと、6名の代表者が消火器を使って火を消す訓練を行いました。

